

7月19日香川県技 コラボセミナー

歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士の三位一体で活用する口腔内スキャナー

-コミュニケーションとしての視点から-

神奈川歯科大学附属病院において、10年以上前から CEREC システムを導入しており、ブルーカム時代から歯冠補綴治療に活かしてきた。現在は、CEREC や TRIOS などの IOS を配置し、更に技工面においては最新の CAD/CDM システムを取り入れたデジタル診療に力を入れており、近年の飛躍的な進歩かつ複雑化しているデジタル歯科技術による治療を積極的に行っている。

現在の歯科臨床において、正確で的確な歯科医師と歯科技工士及び歯科衛生士とのコミュニケーションは必要不可欠である。しかし、現状では歯科技工士が患者のいる現場で立ち会う機会は少なく、歯科医師と共に患者接している歯科衛生士でさえもコミュニケーションが不十分であることを経験する場面が多々あった。そこで我々は 2017 年 11 月に新病院開設に伴いデジタルに特化した診療科を新設した際、歯科技工士も Operator 歯科技工士として臨床現場に積極的に関わるような環境整備を行った、これにより、歯科医師と歯科技工士の意思疎通が確実に became ため、治療側での満足度のみならず、患者の満足度が飛躍的に向上した。更に現在では、デジタル診療を行う歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士が三位一体となり治療に携われる環境を構築しており、より質の高い治療を提供できるようになってきている。

更に、歯学部学生に対しての教育にも積極的に歯科技工士が参加していることも当大学の新たな試みである。臨床実習生に対して、歯科技工士が主体となったデジタルラボ教育を行い、歯科技工士の目線からデジタル技術を理解できる歯科医師の育成に参画している。現在 1 年が経過し歯学部学生のデジタルワークフローの理解は多面的になり新時代の歯科を支える人材教育に貢献してきている。

今回の講演では、現在デジタル診療を中心に行っている歯科医師、歯科技工士および歯科衛生士が、お互いの立場からデジタル技術をどう用いているかを中心に、今後の展望までお話ししたい。